

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	リトルジェム2nd		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 9日		～ 2026年 2月 27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21名	(回答者数) 20名
○従業者評価実施期間	2026年 2月 9日		～ 2026年 2月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3名	(回答者数) 3名
○訪問先施設評価実施期間	2026年 2月 9日		～ 2026年 2月 27日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 15日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	情報共有・PDCAの徹底による質の高い支援体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>訪問前後に児発管と必ず打ち合わせ・振り返りを実施</li> <li>観察視点のすり合わせを徹底し、支援のズレを防止</li> <li>訪問ごとに詳細な報告書を作成し、支援の検証に活用</li> <li>職員間での即時的な意見交換により柔軟に改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>PDCAを形式化(記録様式統一)し、組織的運用へ</li> <li>振り返り内容の蓄積・データベース化</li> <li>外部評価や第三者視点の導入による客観性強化</li> </ul>
2	個別ニーズに基づいた支援と計画作成力	<ul style="list-style-type: none"> <li>TASP等を活用したアセスメントの実施</li> <li>保護者・訪問先双方の意向を計画に反映</li> <li>個別支援計画に基づいた観察+必要時の直接支援</li> <li>子どもの状態・課題を具体的に可視化し共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アセスメント結果の視覚化(グラフ・指標化)</li> <li>支援効果の定量評価(変化の見える化)</li> <li>専門分野別研修(感覚統合・行動分析など)の強化</li> </ul>
3	保護者・訪問先との信頼関係構築と丁寧な情報共有	<ul style="list-style-type: none"> <li>訪問月に面談を実施し詳細なフィードバック</li> <li>HUGや面談を活用した継続的な情報共有</li> <li>訪問先とカンファレンス・助言を実施</li> <li>相談・要望への迅速対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報発信(SNS・活動記録)の頻度向上</li> <li>報告書の簡潔化・視認性改善</li> <li>家族支援の体系化(ペアトレ導入など)</li> </ul>

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問支援と児童発達支援の人員バランス・運営負荷の偏り	<ul style="list-style-type: none"> <li>訪問支援は適切配置だが、その分児発側の人員不足感がある</li> <li>訪問と通所の兼務により、業務負担が偏る可能性</li> <li>訪問支援の拡大に伴い、全体最適ではなく“部分最適”になっている可能性</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>訪問専任/兼務の役割整理(比率の明確化)</li> <li>人員配置の見直し(時間常務・業務別シフト設計)</li> <li>業務の見える化(訪問・児発それぞれの負荷数値化)</li> <li>中長期的には訪問支援の専任体制の検討</li> </ul>
2	情報発信・見える化の不足(保護者・訪問先向け)	<ul style="list-style-type: none"> <li>SNS・活動記録の更新頻度が十分でない</li> <li>訪問日程や支援内容の伝達手段が分散</li> <li>報告書の視認性(読みづらさ)への指摘あり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>訪問スケジュールの一元管理・通知強化</li> <li>報告書フォーマット改善(簡潔・図式化)</li> <li>SNS・HUGの定期更新ルール化</li> </ul>
3	外部評価・客観的検証体制の未整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>第三者評価が未実施</li> <li>内部評価中心で客観性が不足</li> <li>訪問支援事業としての運用歴が浅い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部専門家(ST・OT等)との連携強化</li> <li>第三者評価の導入</li> <li>他事業所との相互評価・事例検討会の実施</li> </ul>